

掛川市指定文化財

松ヶ岡(旧山崎家住宅)

主屋・新風呂便所棟

保存修理工事報告書



口絵1、掛川城天守閣からの眺望 西方の旧山崎家住宅を望む



口絵2、主屋 正面全景



口絵3、主屋 正面西側外観



口絵4、主屋 次の間から北東をみる  
表座敷・十畳・八畳・仕事場をみる



口絵5、主屋 仕事場から北西をみる  
十畳・次の間・八畳・中の間をみる



口絵6、主屋 通り庭から南西をみる  
中庭・台所・中の間をみる



## 序

松ヶ岡(旧山崎家住宅)は、安政三年(一八五六)、当地の豪商山崎家により、その居宅として建築されました。

山崎家は商いで財を成して掛川藩の御用商人となった家であり、山崎千三郎は初代掛川町長として掛川の産業の発展に尽くし、その甥覚次郎は東京帝国大学経済学部長として貨幣論を研究するなど、国内外で活躍した偉人も輩出しています。

建物と庭園が良好に残っている松ヶ岡ですが、昭和三二年以降は山崎家の居宅としては使用されず、平成二〇年代になると取り壊しの計画が持ち上がりました。

これに対し、市民から保存を望む声が上がリ、平成二四年に掛川市が取得、その後、東京藝術大学による歴史的建造物現況調査等により、その文化的価値が明らかになり、平成二八年には掛川市指定有形文化財に指定され、永く保存されることとなりました。

しかしながら、松ヶ岡は建築後一六〇年以上が経過しており、各所に経年劣化が進行しています。

貴重な建造物をその歴史とともに後世に永く継承し、まちづくりの拠点として活用していくため、掛川市では主屋・新風呂便所棟の修復工事を進め、令和五年六月に完了いたしました。

修復工事と並行して行われた建物調査では、式台玄関の建築年代が確定したり、建物に強固な地震対策が確認できるなど、数多くの新たな発見がありました。

この度、工事の成果が修理報告書として刊行され、広く公表されることは、松ヶ岡の価値をさらに高める一助になると信じております。

また、修復後はその歴史的価値を活かし、人材育成・教育・市民交流の場などとして大いに活用することで、多くの方の努力で保存されてきた松ヶ岡を、次の二〇〇年、二〇〇年後も大切に継承してまいります。

このように松ヶ岡の整備事業を進めることができたのは、専門的指導をいただいている松ヶ岡建造物整備委員会や、活用を協議する松ヶ岡プロジェクト推進委員会、日々の維持管理に協力いただいているボランティアの方々などのご尽力の賜物です。

事業に携わるすべての方に心より感謝を申し上げます、序文といたします。

令和六年二月吉日

掛川市長 久保田 崇

## 例言

一、この報告書は、掛川市指定文化財松ヶ岡（旧山崎家住宅）主屋・新風呂便所棟の保存修理工事記録として刊行するものである。

二、編集にあたっては、工事概要のほか、工事中の調査事項、発見物、および建物に関する各種参考資料などをまとめた。

三、本書で使用する室名称は、山崎良太郎氏・山崎文三氏・横山茂氏・横山茂明氏からの聞き取りによった。

四、図面は工事中に作成した記録図面と、その他の挿図を掲載した。写真は修理前、竣工、工事中の記録と各種資料のうち重要なものを掲載した。

五、本文の表示寸法は尺寸法（一尺≒三〇三ミリメートル）とし、必要に応じてメートル法を用いた。図面の表示寸法はメートル法とした。

六、本書の編集・執筆などの担当は、次のとおりである。

編集 一般財団法人 京都伝統建築技術協会

文執筆 後記以外

濱野 豪

第二部第四章・第三部第三章

(有)滝一級構造研究室

滝 英規

第二部第三章第四節

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学  
専攻保存修復建造物研究室

上妻みのり

同樹種同定調査報告

公益財団法人東京都教育支援機構

鈴木 伸哉

図面・挿図作成

東京都埋蔵文化財センター

濱野 豪

写真撮影

京都伝統建築技術協会

濱野 豪

同

下条 典功



同 同

写真1、扁額「以善堂」 掛川市蔵

少納言清原宣明の書で、文化8年（1811）頃と伝えられている。

以善堂とは山崎家四代万右衛門（名：旭、隠居後儀一、号：晨園・以善堂）の号のひとつである。「善事を行う大きな家、自ら善行を積み、それを以って人々を感化し善い行いをする人を育てる」という意味である。

この言葉の通り、山崎家は松本家・鳥井家と共に「掛川御三家」として、江戸期には掛川藩の御用達を勤め、近代では掛川の茶・金融・道路・鉄道・水資源・教育など、掛川の発展に大きく貢献し、様々な功績をあげてきた。

昭和31年山崎家は拠点を関東に移したが、現在でも掛川ではその功績が称えられている。

西尾 瑞希  
鵜川 夏美

# 本文目次

## 第一部 概説

第一章 掛川の概要	2
第一節 掛川の環境	2
第二節 掛川の歴史	4
第三節 宿場町・城下町としての掛川	6
第四節 掛川の災害	7
第二章 旧山崎家住宅の概要	12
第一節 山崎家の概要	12
第二節 明治天皇御巡幸	26
第三節 建物の概説	40
第四節 文化財の指定	58
第五節 旧山崎家住宅の変遷	59
第三章 修理工事の概要	66
第一節 概要	66
第二節 工事の経過	68
第三節 工事関係者	69
第四節 工事実施工程	71
第五節 実施仕様	72
第六節 工事費	85
第四章 資料	86
第一節 史料	86
第二節 古写真	87

## 第二部 主屋

第一章 概要	93
第一節 構造形式	93
第二節 規模	102
第二章 調査事項	103
第一節 破損状況	103
第二節 技法調査	107
第三節 後世の修理経過	164
第四節 復原考察	184
第三章 構造の特徴	191
第一節 当初の軸組架構	191
第二節 地震対策の考察	219
第三節 台風対策の考察	220
第四節 意匠材の特徴	221
第四章 耐震診断	229
第一節 概要	229
第二節 診断結果	229
第五章 資料	233
第一節 棟札	233
第二節 年号	234
第三節 墨書	235
第四節 発見物	236

## 第三部 新風呂便所棟

第五節 史料	238
第六節 古写真	241
図版	245
図面	334
第一章 概要	354
第一節 構造形式	354
第二節 規模	356
第二章 調査事項	357
第一節 破損状況	357
第二節 技法調査	358
第三節 後世の修理経過	369
第四節 復原考察	371
第三章 耐震診断	372
第一節 概要	372
第二節 診断結果	372
第四章 資料	375
第一節 史料	375
図版	376
図面	395

# 挿 図 目 次

## 第一部 概 説

一・一、静岡県地図・・・・・・・・・・・・・・・・	2		
一・二、掛川市地図・・・・・・・・・・・・・・・・	2		
一・三、旧山崎家住宅位置図・・・・・・・・・・	3		
一・四、浮世絵にみる掛川・・・・・・・・・・	4		
一・五、遠州掛川城絵図(正保年間)・・・・・・・・	5		
一・六、掛川城平面図・・・・・・・・・・	6		
一・七、御天守台石垣芝土手崩所絵図・・・・・・・・	7		
一・八、遠江国掛川城地震之節損所之寛図・・・・・・・・	7		
一・九、掛川宿大火延焼区域想定図・・・・・・・・	9		
二・一、水戸偕楽園記念碑拓本・・・・・・・・	15		
二・二、青田坂隧道・・・・・・・・・・	18		
二・三、大井川疎水計画図・・・・・・・・・・	18		
二・四、山崎家当主一覽表・・・・・・・・・・	21		
二・五、山崎家系図・・・・・・・・・・	22		
二・六、小笠原候時代城図の部分・・・・・・・・	24		
二・七、昭和一〇年と推測される長屋門・・・・・・・・	29		
二・八、大正七年五月の年紀がある長屋門・・・・・・・・	30		
二・九、掛川城御殿棟札・・・・・・・・・・	31		
二・一〇、史蹟指定時の図面・・・・・・・・・・	34		
二・一一、史蹟指定時の古写真・・・・・・・・	34		
二・一二、史蹟指定時の書類・・・・・・・・	35		
二・一三、史蹟指定の図面等・・・・・・・・	35		
		二・一四、旧山崎家住宅配置図(主屋修理前)・・・・・・・・	41
		二・一五、長屋門・中門平面図(修理前)・・・・・・・・	42
		二・一六、奥座敷棟・風呂便所棟・二階屋平面図(修理前)・・・・・・・・	43
		二・一七、奥座敷棟竣工時と推測される古写真・・・・・・・・	45
		二・一八、米蔵・納屋平面図(修理前)・・・・・・・・	48
		二・一九、西蔵・奥蔵・金庫蔵平面図(修理前)・・・・・・・・	50
		二・二〇、北蔵・味噌蔵平面図(修理前)・・・・・・・・	52
		二・二一、明治十一年松ヶ岡行在所の挿図・・・・・・・・	56
		二・二二、旧山崎家住宅略年表・・・・・・・・	57
		二・二三、掛川市遺跡地名表・・・・・・・・	58
		二・二四、掛川市遺跡地図・・・・・・・・	59
		二・二五、居宅之図・・・・・・・・	61
		二・二六、掛川行在所平面図・・・・・・・・	62
		二・二七、史蹟指定時の図面・・・・・・・・	63
		二・二八、旧山崎家住宅配置図(主屋修理前)・・・・・・・・	64
		二・二九、旧山崎家住宅配置図の比較・・・・・・・・	65
		三・一、実施工程表・・・・・・・・	71
		三・二、工事費・・・・・・・・	85
		四・一、西町から移転の経緯(原文)・・・・・・・・	86
		四・二、肖像画・・・・・・・・	86
		四・三、九代淳一郎と妻浪江・・・・・・・・	87
		四・四、主庭(主屋南西側)・・・・・・・・	87
		四・五、長屋門・・・・・・・・	88
		四・六、奥座敷での写真・・・・・・・・	89
		四・七、風呂便所棟西側での写真・・・・・・・・	90
		四・八、米蔵西側での写真・・・・・・・・	90
		四・九、西蔵東側での写真・・・・・・・・	91
		四・一〇、中門東側での写真・・・・・・・・	91
		<b>第二部 主 屋</b>	
		一・一、修理前・竣工平面図・・・・・・・・	101
		二・一、解体番付図(修理前)・・・・・・・・	103
		二・二、柱不陸図(修理前)・・・・・・・・	105
		二・三、柱傾斜図(修理前)・・・・・・・・	105
		二・四、修理前と後補材撤去後の間取り比較図・・・・・・・・	108
		二・五、柱間寸法実測図・・・・・・・・	111
		二・六、畳割り検討図・・・・・・・・	112
		二・七、推定計画寸法図・・・・・・・・	113
		二・八、当初推定番付図・・・・・・・・	115
		二・九、礎石調査図・・・・・・・・	116
		二・一〇、土間調査図・・・・・・・・	117
		二・一一、土台調査図・・・・・・・・	118
		二・一二、北縁(西)外觀・・・・・・・・	119
		二・一三、柱調査図・・・・・・・・	121
		二・一四、差し敷居・足固め調査図・・・・・・・・	123
		二・一五、下屋下段軒桁・敷桁調査図・・・・・・・・	124
		二・一六、下屋上段軒桁・敷桁調査図・・・・・・・・	125
		二・一七、差し鴨居・床梁・登り梁 繋ぎ梁・受け梁調査図・・・・・・・・	127
		二・一八、差桁・差梁調査図・・・・・・・・	128

二・一九、束柱・束調査図	129
二・二〇、上屋軒桁・敷桁・敷梁調査図	131
二・二一、下屋母屋・棟木・垂木掛け調査図	132
二・二二、下屋垂木・野地板調査図	133
二・二三、上屋母屋・棟木調査図	134
二・二四、上屋小屋束・小屋筋違い調査図	135
二・二五、大引・根太掛け調査図	136
二・二六、アイソメ図	138
二・二七、薄敷居調査表	151
二・二八、長押調査表	152
二・二九、天井材調査表	153
二・三〇、土壁上塗替調査表	157
二・三一、建具調査表	159
二・三二、発見年号一覧表	164
二・三三、当初推定平面図・下屋屋根伏図	178
二・三四、第一次修理	179
二・三五、第二次修理	180
二・三六、第三次修理	181
二・三七、第四次修理	182
二・三八、第五次修理	183
三・一、当初推定架構図	192
三・二、意匠材の樹種	221
三・三、柱の太さと柱目の配置	222
三・四、柱と指物の配置	224
三・五、長押の成・樹種、差鴨居の樹種	225

三・六、主屋の部材の樹種	227
三・七、主屋の部材の顕微鏡写真	228
四・一、壁伏図	230
四・二、差し鴨居伏図	230
四・三、竣工時に復元後のX方向 性能評価と応答値	231
四・四、竣工時に復元後のY方向 性能評価と応答値	231
四・五、表層地盤による加速度増幅率	231
四・六、加速度応答スペクトル	232
四・七、検証結果のまとめ	232
五・一、和歌類例	234
五・二、式台計画図	238
五・三、主屋南面西側を南からみる	241
五・四、主屋南西隅を北西からみる	241
五・五、主屋南西隅を北からみる	242
五・六、主屋縁台を南からみる	242
五・七、茶の間西面	243
五・八、廻り縁南面外部	243
五・九、北縁(西)外部	243
五・一〇、主屋南面東側外観	244
五・一一、主屋南面東側外観	244

**第三部 新風呂便所棟**

一・一、修理前・竣工平面図	356
二・一、解体番付図	357

**写真目次**

**巻頭**

二・二、柱不陸図	357
二・三、柱傾斜図	357
二・四、計画寸法図	358
二・五、当初推定番付図	359
二・六、建具調査表	368
三・一、壁伏図	373
三・二、竣工時に復元後のX方向 性能評価と応答値	373
三・三、竣工時に復元後のY方向 性能評価と応答値	373
三・四、表層地盤による加速度増幅率	374
三・五、加速度応答スペクトル	374
三・六、検証結果のまとめ	374
四・一、山崎家児供室新築仮計画図	375

口絵一、掛川城天守閣からの眺望	
口絵二、主屋 正面全景	
口絵三、主屋 正面西側外観	
口絵四、主屋 次の間から北東をみる	
口絵五、主屋 仕事場から北西をみる	
口絵六、主屋 通り庭から南西をみる	
写真一、扁額「以善堂」	

第一部 概説

二・一、文部大臣の標識	29	二・二五、金庫蔵床	51	三・一三、隅棟銅瓦葺状況	79
二・二、揭示板木柵	29	二・二六、北蔵南面	53	三・一四、大棟銅瓦葺状況	79
二・三、標石	29	二・二七、北蔵一階東面	53	三・一五、塩ビ製内樋新設状況	79
二・四、扁額	33	二・二八、味噌蔵南面	53	三・一六、落ち葉除けネット新設状況	79
二・五、扁額	33	二・二九、味噌蔵東室	53	三・一七、小舞掻き状況	80
二・六、長屋門正面	42	二・三〇、中門・塀東面	54	三・一八、荒壁土塗状況	80
二・七、長屋門背面	42	二・三一、中門東面	54	三・一九、中途状況	80
二・八、奥座敷棟西面	44	二・三二、中門西面	54	三・二〇、半田上塗状況	80
二・九、奥座敷棟奥座敷	44	二・三三、門・袖塀・脇塀南西面	54	三・二一、雨戸建付調整完了	82
二・一〇、奥座敷棟北八畳	44	二・三四、露地門・袖塀北面	55	三・二二、障子建付調整状況	82
二・一一、奥座敷棟廊下	44	二・三五、露地門・袖塀北面	55	三・二三、管理室クロス張り新設	83
二・一二、風呂便所棟西面	46	二・三六、裏門北面	55	三・二四、便所間仕切りブラス新設	83
二・一三、風呂便所棟洗面室	46	二・三七、外塀南側(長屋門東側)	55	三・二五、七島表	83
二・一四、風呂便所棟風呂	46	三・一、素屋根架設状況	73	三・二六、畳敷き込み状況	83
二・一五、風呂便所棟手洗い	46	三・二、作業員詰所・現場事務所	73	三・二七、自動火災報知設備設置状況	84
二・一六、二階屋東面	47	三・三、礎石補修状況	75	三・二八、給湯室流し台新設	84
二・一七、二階屋座敷	47	三・四、コンクリートブロック新設状況	75	三・二九、瓦メッセージ	84
二・一八、米蔵西面	49	三・五、土台矧木状況	76	三・三〇、三和土体験会状況	84
二・一九、米蔵南東面	49	三・六、柱根継ぎ状況	76		
二・二〇、納屋西面	50	三・七、差し敷居継ぎ木状況	76	<b>第二部 主屋</b>	
二・二一、納屋北室南面	50	三・八、軒桁継ぎ木状況	76	二・一、当初番付	114
二・二二、奥蔵西面	51	三・九、土居葺状況	77	二・二、「は二」柱 柱頭柄	120
二・二三、西蔵東面	51	三・一〇、瓦勾配検討状況	77	二・三、礎石上の切石	120
二・二四、金庫蔵西面	51	三・一一、空葺下地状況	77	二・四、「は九」柱 差し鴨居納まり	126
		三・一二、棧瓦葺状況	77	二・五、敷桁・敷梁、差桁・差梁、継手と仕口	130
				二・六、小屋東当初転用材の痕跡	130

二・七、母屋当初転用材の痕跡	137
二・八、小屋組	137
二・九、当初床組	137
二・一〇、台所北側の大引当初転用材の痕跡	137
二・一一、瓦屋根土居葺	144
二・一二、銅板屋根土居葺	144
二・一三、瓦	145
二・一四、瓦刻印	146
二・一五、紐漆喰・面戸漆喰・銅板詳細	147
二・一六、敷居雇い蟻柄と溝埋木	150
二・一七、鴨居雇い蟻柄	150
二・一八、土壁下地	156
二・一九、畳藁床	163
三・一、次の間より表座敷をみる	223
三・二、台所より土間部北東側をみる	223
三・三、建てのぼせ柱「り・四」と差梁	223
三・四、表座敷南側の長押	225
三・五、十畳西側の長押	225
三・六、土間境	225
三・七、床上部小屋裏	225
五・一、主屋棟札	233
五・二、式台棟札	233
五・三、仏間仏壇置き場天井塗籠上のコテ刻み	234
五・四、建具墨書	234
五・五、逆さの墨書	235

五・六、炊事場小屋束番付	235
五・七、胴貫墨書	235
五・八、化粧裏板墨書	235
五・九、廻り縁荒板墨書	235
五・一〇、ツシ二階壁面墨書	236
五・一一、大引楔の墨書	236
五・一二、和釘袋	236
五・一三、表座敷床の間障壁下貼り	237

**第三部 新風呂便所棟**

二・一、柱当初番付	359
二・二、礎石	360
二・三、軒桁上端	361
二・四、化粧裏板	362
二・五、面戸鉄製網	363
二・六、瓦	363
二・七、天井	366
二・八、マイナス頭のビス	366
二・九、便所床・腰タイル	367
二・一〇、ネジ締め	367
二・一一、便所前室手洗器	368

一・一、竣工 外観 南面	246
一・二、修理前 外観 南面	246
二・一、竣工 外観 式台	247
二・二、修理前 外観 式台	247
三・一、竣工 外観 南西面	248
三・二、修理前 外観 南西面	248
四・一、竣工 外観 東面	249
四・二、修理前 外観 東面	249
五・一、竣工 外観 北東面	250
五・二、修理前 外観 北東面	250
六・一、竣工 外観 北面西側	251
六・二、修理前 外観 北面西側	251
七・一、竣工 表座敷	252
七・二、修理前 表座敷	252
八・一、竣工 次の間	253
八・二、修理前 次の間	253
九・一、竣工 廻り縁	254
九・二、修理前 廻り縁	254
一〇・一、竣工 取次	254
一〇・二、修理前 取次	254
一一・一、竣工 十畳	255
一一・二、修理前 十畳	255
一二・一、竣工 八畳	256
一二・二、修理前 八畳	256
一三・一、竣工 仏間	257
一三・二、修理前 仏間	257

## 図 版 目 次

### 第二部 主屋

一四・一、竣工	茶の間	258	二五・二、修理前	女中部屋(便所)南東面	268	四七、木部修理	281
一四・二、修理前	茶の間	258	二六・一、竣工	北縁(東)	268	四八、屋根修理	282
一五・一、竣工	小座敷	259	二六・二、修理前	北縁(東)	268	四九、土壁修理	283
一五・二、修理前	小座敷	259	二七・一、竣工	ツシ二階南東面	268	五〇、建具修理	284
一六・一、竣工	四畳	260	二七・二、修理前	ツシ二階南東面	268	五一、釘・ビス	284
一六・二、修理前	四畳	260	二八・一、竣工	土庇	269	五二、廻り縁小壁上塗痕跡	285
一七・一、竣工	北縁(西)	260	二八・二、修理前	土庇	269	五三、廻り縁小壁上塗痕跡	285
一七・二、修理前	北縁(西)	260	二九、後補材撤去	土間	269	五四、廻り縁小壁上塗痕跡	285
一八・一、竣工	仕事場	261	三〇、後補材撤去	仕事場	270	五五、取次小屋裏北面	285
一八・二、修理前	仕事場	261	三一、後補材撤去	中の間	270	五六、仕事場西面	286
一九・一、竣工	中の間	262	三二、後補材撤去	台所	271	五七、仕事場南面外部	286
一九・二、修理前	中の間	262	三三、後補材撤去	前庭	271	五八、当初軒桁	287
二〇・一、竣工	台所	263	三四、後補材撤去	中庭	272	五九、明治四四年の差し敷居	287
二〇・二、修理前	台所	263	三五、後補材撤去	通り庭・向い台所・炊事場	272	六〇、廻り縁西側小屋裏	287
二一・一、竣工	前庭	264	三六、後補材撤去	番頭部屋・番頭部屋前室	273	六一、仏間東面	288
二一・二、修理前	前庭	264	三七、後補材撤去	女中部屋	273	六二、仏間西面	288
二二・一、竣工	中庭	265	三八、後補材撤去	土庇	273	六三、小座敷南面物入	289
二二・二、修理前	中庭	265	三九、瓦屋根解体	土庇	274	六四、物入天袋天井	289
二三・一、竣工	通り庭・向い台所・炊事場	266	四〇、銅板屋根解体		275	六五、小座敷西側小屋裏当初母屋	290
二三・二、修理前	通り庭・向い台所・炊事場	266	四一、小屋組部分解体		276	六六、小座敷西側小屋裏地梁	290
二四・一、竣工	番頭部屋・番頭部屋前室	267	四二、床組状況		277	六七、下屋北西隅の隅棟	291
二四・二、修理前	番頭部屋・番頭部屋前室	267	四三、土壁部分解体		278	六八、四畳東面天袋	291
二五・一、竣工	女中部屋(便所)南東面	268	四四、軸部分解体		279	六九、四畳東面天袋天井	292
	(管理室)	267	四五、礎石状況		280	七〇、雨戸敷居・雨戸鴨居	292
		268	四六、不陸・傾斜修正		280	七一、雨戸鴨居詳細	292

七二、	戸数敷居詳細	292	九七、	中庭東面	304	一一一、	戸袋	316
七三、	北縁(東)南面東側	293	九八、	中庭北面物入	304	一一三、	格子戸	316
七四、	北縁(東)南面西側	293	九九、	中庭く通り庭境	305	一一四、	土庇南東隅東側軒内	317
七五、	仕事場北西面	294	一〇〇、	通り庭東側カマド痕	305	一一五、	番頭部屋前室東面	317
七六、	取外された差し敷居	294	一〇一、	通り庭境西面基礎	306	一一六、	番頭部屋東面	318
七七、	南端木口	294	一〇二、	洗い場	306	一一七、	女中部屋北面	318
七八、	北端木口	294	一〇三、	上り台	307	一一八、	女中部屋南東面	319
七九、	中の間北面	295	一〇四、	向い台所西面差し敷居	307	一一九、	ツシニ階東面	319
八〇、	中の間西面	295	一〇五、	向い台所東面差し敷居	308	一二〇、	ツシニ階西面	320
八一、	ツシニ階登り口詳細	296	一〇六、	向い台所北面東側差し敷居	308	一二一、	ツシニ階補強梁痕跡	320
八二、	階段仮設置	296	一〇七、	向い台所北面西側差し敷居	309	一二二、	ツシニ階南面	321
八三、	台所西面物入痕跡	297	一〇八、	通り庭東面	309	一二三、	ツシニ階北面東側	321
八四、	物入の柱と中敷居	297	一〇九、	下屋北東隅内側	310	一二四、	ツシニ階北面西側	322
八五、	前庭南面	298	一一〇、	「か五」柱北東面	310	一二五、	中の間小屋裏南面	322
八六、	米蔵に保管されていた大戸	298	一一一、	下屋北東隅東面	311	一二六、	ツシニ階床板	323
八七、	前庭東面	299	一一二、	当初軒桁上端	311	一二七、	上屋北面野小舞	323
八八、	前庭北面	299	一一三、	下屋北東隅北面	312	一二八、	東下屋	324
八九、	中廊下く食堂境に転用された格子戸	300	一一四、	向い台所天井裏東面・南面・西面	312	一二九、	同上広小舞詳細	324
九〇、	「ほ八」当初柱	300	一一五、	土間通路化粧屋根裏	313	一三〇、	下屋南東隅木と母屋詳細	325
九一、	前庭く中庭境の当初鴨居	301	一一六、	向い台所を東から見る	313	一三一、	東下屋垂木鼻先	325
九二、	中庭南西面	301	一一七、	炊事場東面軒桁下端	314	一三二、	東下屋天窓	326
九三、	電話室の柱	302	一一八、	炊事場北面・東面	314	一三三、	上屋東妻	326
九四、	中庭西側東石・布石	302	一一九、	カマド南面	315	一三四、	上屋東妻南端	327
九五、	上り台仮設置	303	一二〇、	土庇北面	315	一三五、	上屋西妻	327
九六、	炊事場東面外部	303	一二一、	「ほ二」当初柱	316	一三六、	当初床組	328

一四七、当初足固め	328
一四八、当初大引	329
一四九、足固め・大引・根太詳細	329
一五〇、敷桁・敷梁と差桁・差梁	330
一五一、敷桁・敷梁と差桁・差梁	330
一五二、敷桁・敷梁と差桁・差梁	331
一五三、「ち十三」建てのぼせ柱南東面	331
一五四、「ほ十三」建てのぼせ柱北東面	332
一五五、「ほ九」建てのぼせ柱北西面	332
一五六、「ち九」建てのぼせ柱南西面	333
一五七、小屋組	333

**第三部 新風呂便所棟**

一・一、竣工 外観 南西面	377
一・二、修理前 外観 南西面	377
二・一、竣工 外観 北西面	378
二・二、修理前 外観 北西面	378
三・一、竣工 外観 北面	379
三・二、修理前 外観 北面	379
四・一、竣工 外観 南東面	380
四・二、修理前 外観 南東面	380
五・一、竣工 便所前室 北面	381
五・二、修理前 便所前室 北面	381
六・一、竣工 便所前室 西面	382
六・二、修理前 便所前室 西面	382
七・一、竣工 脱衣室・廊下 南東面	383

**図 面 目 次**

七・二、修理前 脱衣室・廊下 南東面	383
八・一、竣工 廊下 北東面	384
八・二、修理前 廊下 北東面	384
九・一、竣工 風呂 北東面	385
九・二、修理前 風呂 北東面	385
一〇、解体前瓦葺	386
一、葺土	386
二、土居葺	387
三、化粧裏板・野小舞	388
四、軒廻り詳細	389
五、主屋部北西隅木修理状況	390
一六、軒廻り修理	391
一七、野小舞修理	391
一八、土居葺・瓦空葺下地	392
一九、瓦葺	392
二〇、簷子下見板背面壁状況	393
二一、床下状況	393
二二、上塗コソゲ	393
二三、外部東面	394
二四、外部東面北間	394

**第二部 主屋**

第一図、竣工 平面図	335
------------	-----

**第三部 新風呂便所棟**

第二図、竣工 見上図	336
第三図、竣工 下屋屋根伏図	337
第四図、竣工 上屋屋根伏図	338
第五図、竣工 立面図一	339
第六図、竣工 立面図二	340
第七図、竣工 断面図一	341
第八図、竣工 断面図二	342
第九図、竣工 断面図三	343
第一〇図、修理前 平面図	344
第一一図、修理前 見上図	345
第一二図、修理前 下屋屋根伏図	346
第一三図、修理前 上屋屋根伏図	347
第一四図、修理前 立面図一	348
第一五図、修理前 立面図二	349
第一六図、修理前 断面図一	350
第一七図、修理前 断面図二	351
第一八図、修理前 断面図三	352
第一図、修理前 竣工 平面図・見上図・屋根伏図	396
第二図、修理前 竣工 立面図	397
第三図、修理前 竣工 断面図	398